

「住まう喜びを感じるまち 南魚沼市」を考える

多世代の市民全員が輝き 健康で快適に暮らせ 若者の期待に応えられるまち

【問合せ】U&Iときめき課 ☎773-6659

南魚沼市で輝くひと（第1回）✍️ 荻田健治さん



今回お話を伺ったのは、東京と南魚沼市で二地域居住を始めた荻田健治さん。六日町駅西口近くで古着の子ども服店「Antelope kids clothes」をオープンしました。

Q. 市に出店したきっかけは？

A. 市主催のグローバルビジネス塾に参加して、市の自然環境や特産品に触れると同時に、いろいろな課題があることを知りました。また、以前からスキーやハイキングなどに訪れていたのが、南魚沼市にいる時間を増やし、この地で何かをしたいと考えたことがきっかけです。

Q. なぜ、古着の子ども服店だったのですか？

A. 子育て支援という観点で、何ができるかと考えたときに、子どもたちがカラフル(色彩豊か)な洋服を着て、元気に遊んでいるというイメージがありました。北欧の子どもたちというイメージもあって、冬は長くて暗いけど、服がカラフルで明るいんです。そういうものを南魚沼で実現できればと思っています。

Q. 市に住んでみて感じた魅力、印象は？

A. 田んぼが広がり、山が見える自然環境と、水と空気とお米とお酒がおいしいというのが第一印象です。南魚沼の知り合いも増えました。親しみやすく、おおらかな人も多いので、コミュニケーションが非常に取りやすいと感じています。また、せっかくの南魚沼暮らしですから、田んぼと畑を少しお借りして、お試し農業にも挑戦しています。そろそろ枝豆ができるころなので、仕事後のビールが楽しみです。

Q. これからの夢や、やりたいことは？

A. 子育て世代のコミュニケーションの場を形成したいです。例えば、子ども服を売る場だけではなく、交換をする場だったり、あるいはレンタルだったり、コミュニティの場として広げていければ、もっといいかなという思いがありますね。

地域団体の連携強化をめざします



6月16日(金)に図書館多目的室でセミナーが開催されました。「大人の本気×こどもたちの未来」をつくるというテーマで、岐阜県可児市での実践経験をもとに大正大学浦崎教授からご講演いただきました。

可児市では、地域団体と学校との関係を調整するNPO法人「縁塾」が高校生にさまざまな学びの場を提供しています。その結果、地域で活躍する人を知り、自分の進む道について具体的に考えるようになり、そして、将来のUターンにも期待されています。

市でも、「縁塾」のような地域団体と学校を結びつける窓口が必要であり、地域一体で本気になって子どもを育てていくことが重要であるとアドバイスをいただきました。

当日は、学校関係者や地域団体、地域づくり協議会から60人が参加し、まちづくり、人づくりへの思いを共有することができました。セミナーをきっかけにすべての学校と地域の連携強化を進めていきます。

将来の南魚沼市の姿に夢を膨らませ、興味や誇りを持ってほしい

7月8日(土)に、小学生がまちづくりについて話し合う「若者まちづくり会議・キッズバージョン」を開催し、市内4小学校、49人の児童が参加しました。

児童は、学校の垣根を越え9つのグループに分かれて、「将来、南魚沼をどんなまちにしたいか」というテーマで、写真を使って「まちの将来像」について話し合いました。子どもたちの意見をもとに、「今自分たちが出来ること」を40歳以下の若者による「若者まちづくり会議」で話し合います。

